

〔全体計画〕

小学部第*学年 算数科学習指導案

日時	令和3年*月*日(*) 9:20～10:05		場所	小学部*年*組教室
指導者	木村 優香 (T 1)、** ***(T 2)			
単元名	「重さをくらべよう」			
本単元の目標	・身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けることができる。(知識及び技能) < 2段階> ・量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べることができる。(思考力、判断力、表現力等) < 2段階> ・数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。(学びに向かう力、人間性等) < 2段階>			
単 元 の 評 価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・身の回りにある具体物の量の大きさに注目している。 ・量の大きさの違いを理解している。 ・2つの量の大きさを比べる方法について理解し、比較している。	・二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べている。	・数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている。	
単元設定の理由	本グループは、小学部*年生男子4人、女子2人の計6人で構成されている。学習に対する意欲が高く、教師の発問に対して積極的に挙手をし、発言する児童が多いが、注意力が散漫で学習に取り組むまでに時間がかかる児童や、発表する場面では自信の有無に左右される児童など、実態は様々である。算数科における児童の実態として、長さやかさの概念については、長い、短い、多い、少ないの表現がわかり、「cm」の用語を知っている児童が数名いる程度である。重さについては、この単元で初めて学習することになるが、児童は、日常生活において物を持つことによって、重い、軽いといった感覚は経験していると考ええる。また、体重測定において「kg」の言葉を聞いていると思われる。しかし、重い、という感覚をもっているにもかかわらず、「重さ」という概念についての理解は不十分であると感じる。 本単元は、特別支援学校小学部学習指導要領に示された第2段階のC「測定」のA「身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。」、イ「量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。」に基づいている。また、内容について、C (ア) ⑦「長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。」とある。そこで本単元では、実際に触れたり、持ったりする活動を多く取り入れ、物を持った時の感覚で重さの見当ができる量感を持たせるとともに、「重さ」への興味・関心を高めていきたいと考える。 指導にあたっては、児童の身の回りにある物の重さをいろいろな道具を用いて調べる活動を取り入れながら学習を進めていく。また、物の重さを実感する活動や、視覚的にとらえにくい量を天秤を使って比較する活動を通して主体的に学習活動に参加できると考える。今回の学習活動を通して、「重さ」の概念を理解できるようにするとともに、日常生活に生かしていけるようにしたいと考えた。			

単元の 指導計画 (8時間版) 本時は 第5時	次	時	学習内容・活動	評価規準・評価方法
	1 「重さを感じよう」	1 「身の回りの重さを感じよう」	身の回りの物の重さを直接手に取って感じ取る。	身の回りの物を手に取り、重さを感じ取ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)〔観察、発表〕
		2 「重さを言葉で表そう」	「重い」・「軽い」・「同じ」の言葉のもつ意味を、物を手に取って感じたり、見て判断したりする。	具体物の量の大きさに注目し、「重い」・「軽い」・「同じ」という違いに気付いている。 (知識・技能)〔観察、発表〕
		3・4 「2つの重さを比べてみよう」	二つの物を手に取り、どちらが重いかを比べる。	一方を基準にしてどちらが重いかを比べようとしている。 (知識・技能)〔発表、ワークシート〕
	2 「重さを比べてみよう」	5(本時)・6 「手作り天秤で重さを比べよう」	重さの異なる物をのせた天秤を見て、重さを比べる。	手作り天秤を使い、傾きを見て、重い・軽いを判断している。 (思考・判断・表現)〔観察、発表〕
		7・8 「身の回りの重さを測ろう」	身の回りの物を測り、重さには単位があることを知る。	身の回りの物の重さに興味をもち、進んで重さを測ろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)〔観察、ワークシート〕

〔本時の指導〕

1 本時の目標 天秤を使って重さを比べ、重い方を選ぶことができる。(思考力、判断力、表現力等)

2 児童の実態及び個別目標

①重さを表す用語の理解

◎：重い・軽いなどの用語を用いて重さを表現することができる。

○：重い・軽いなどの用語を理解することができる。

△：教師と一緒に、重い・軽いを確認することができる。

②重さの比較

◎：二つの物を両手に持ち、重い・軽いを判断することができる。

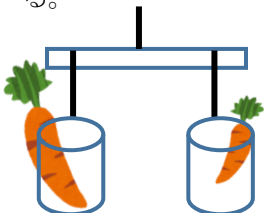
○：具体物を一つずつ手に持ち、重い・軽いを判断することができる。

△：教師と一緒に確認しながら、重い・軽いを判断することができる。

児童 学年	児童の実態		個別目標	自立活動の目標
	①	②		
A 小*	○	○	天秤の傾きを見て、重い方の野菜などを選ぶことができる。 (思考力、判断力、表現力等)	
B 小*	○	○	野菜などをのせた天秤の傾きから、重い方を選ぶことができる。(思考力、判断力、表現力等)	
C 小*	◎	◎	天秤の傾きを見て、重い方の野菜などを選ぶことができる。 (思考力、判断力、表現力等)	順番を守って活動に参加することができる。
D 小*	○	○	野菜などをのせた天秤と、天秤のイラストを見比べながら、重い方を選ぶことができる。 (思考力、判断力、表現力等)	
E 小*	△	△	野菜などをのせた天秤と、天秤のイラストを見比べながら、教師と一緒に重い方を選ぶことができる。 (思考力、判断力、表現力等)	
	教師の言葉かけや、イラストがあればわかる。	一つずつ手に持ち、教師と一緒に確認しながら重い・軽いが判断できる。		
F 小*	△	○	野菜などをのせた天秤と、イラストの天秤を教師と一緒に見比べながら、重い方を選ぶことができる。 (思考力、判断力、表現力等)	簡単な質問に答えることができる。
	教師の言葉かけや、イラストがあればわかる。			

3 展開

※形態の表記は 全体：全、個別：個

形態時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て（各Tの役割等）※評価は□で囲む
全 (1)	1 はじめのあいさつをする。	・姿勢を正してあいさつをすることで、授業の始まりを意識することができるようにする。
全 (4)	2 本時の学習を知る。 (1) 日付を確認する。 *月*日 *曜日 (2) 本時のめあてを確認する。 おもいほうをえらんで、みんな でたべられるカレーをつくろ う。 (3) 本時の学習内容を確認する。 1 ひづけ 2 おもいほうをえらぼう 3 こべつがくしゅう 4 ふりかえり	・ミニホワイトボードと、ホワイトボード用のペンを用意する。 ・日にちや曜日を迷っている時には、「今日は何日、何曜日かな」と言葉かけをする。 ・全員でめあてを声に出して読むことで、本時に取り組む課題を理解できるようにする。 ・児童が見通しをもって授業に参加できるよう、黒板に授業の流れを提示する。
全 (25)	3 具体物の重さを、手作り天秤 で比べる。 (1) カレーの材料を知る。 (2) 顔写真カードと材料のイラストカードを選び、黒板に貼る。  (3) 個体差のある材料二つを選んで、一つずつ天秤にのせる。 	・プラスチックカップを糸で木材に結び付けた手作り天秤を用意する。 ・授業への意欲を高められるよう、児童が興味のある食べ物を用意する。 ・T1に注目できるように、T2は「何が出てくるか、よく見ましょう」と言葉かけをする。 ・児童同士で選んだ材料が分かるように、顔写真カードと材料のイラストカードを用意する。 ・T1は児童が黒板の前に出るように言葉かけをする。 ・T1は前に出ている児童に材料を選ぶよう促す。 ・見た目の差異が少なく重さに差異がある材料を用意する。 ・前時の復習として、天秤に材料をのせる前に手に持って重さを感じ取るよう促す。 ・天秤に材料をのせる時に、重さの衝撃で児童に棒が当たったり、容器がぶつかったりすることがないように配慮する。

個 (13)	(4) 天秤の傾きを見て、重い方の材料を選び、全体に「いいですか」と答えを確認する。 (5) 選んだ重い方の野菜などを鍋に入れる。 4 個別学習をする。 (1) 各自でプリントに取り組む。	・ T 1 は、「重いのはどちらですか」と言葉かけをする。 A、C:天秤の傾きを見て、重い方の野菜などを選んでいる。 (思考・判断・表現)〔観察、発表〕 B:野菜などをのせた天秤の傾きから、重い方を選んでいる。 (思考・判断・表現)〔観察、発表〕 ・ T 1 は、軽い方を選んだ児童や、重い方がどちらか悩んでいる児童には、「イラストの天秤と見比べてみましょう」と傾きに注目できるよう言葉かけをする。 D:野菜などをのせた天秤と、天秤のイラストを見比べながら、重い方を選んでいる。(思考・判断・表現)〔観察、発表〕 E:野菜などをのせた天秤と、天秤のイラストを見比べながら、教師と一緒に重い方を選んでいる。 (思考・判断・表現)〔観察、発表〕 野菜などをのせた天秤の傾きを見て、重い方を選ぶとしている。 (思考・判断・表現)〔観察、発表〕 F:野菜などをのせた天秤と、イラストの天秤を教師と一緒に見比べながら、重い方を選んでいる。 (思考・判断・表現)〔観察、発表〕 ・ T 2 は、座っている児童たちが前に出ている児童と天秤に注目できるよう、「あっているかな」と言葉かける。 ・ 前に出ている児童の発表を聞くことで、答えを全体で確認できるようにする。 ・ 重い方を選べた児童を全体で称賛する。 ・ 鍋を用意し、児童の興味・関心を引き出せるようにする。 ・ 児童が注目できるよう、T 1 は鍋に入れる材料を「〇〇を入れます」と言葉かけをする。 ・ 材料の入った鍋を持つことで、重さを感じ取れるよう言葉かけをする。 ・ 児童が全体学習の終わりを意識できるよう、T 1 は、模型の本時に作ったカレーを用意する。 ・ 全体学習での振り返りをして、黒板に花丸を書き、称賛する。 ・ T 1 は、個別学習の座席に机を移動するよう言葉かけをする。 ・ A児、B児、C児はT 1、D児、E児、F児はT 2が指導する。 ・ T 1、T 2は、各グループの児童にプリントを渡し、進め方を伝える。 ・ 全体学習と結び付け、傾きに注目して重い方を選ぶことを

	(2) グループ内で答えを確認し、丸付けをする。	確認してから始める。 ・ C児には、チャレンジ問題のあるプリントを配付する。 ・ チャレンジ問題が難しい時には、上のイラストと見比べて考えてみるよう促す。 ・ A児、B児が悩んでいたたり、迷っていたりする時には、黒板に貼ってある天秤のイラストと見比べるよう促す。 ・ 重い方の()に丸を付け、四角の枠には重い方の果物の名称を記入することを伝える。 ・ D児、E児には、比べる果物に注目しやすいように、イラストに直接○を付けるプリントを配付する。 ・ D児、E児が悩んでいたたり、迷っていたりする時には、黒板に貼ってある天秤のイラストと見比べるよう、促す。 ・ 四角の枠には、重い方の果物の名称を記入することを伝える。 ・ F児には視写ができるよう、イラストに平仮名で名称が書かれているプリントを配付する。 ・ F児が悩んでいたたり、迷っていたりする時には、黒板に貼ってある天秤のイラストと見比べるよう促す。 ・ T 1、T 2はそれぞれのグループの児童に赤鉛筆を出すよう言葉かけをする。 ・ T 1は、Cのチャレンジ問題の部分を一緒に確認し、丸を付ける。 ・ 答え方が分からない児童には、「①で重いのはメロン、りんご、どちらですか」などと、名称で簡単に答えられるよう言葉かけをする。
個 (1)	5 本時の振り返りをする。	・ 児童が達成感を味わうことができるよう、振り返りシートで本時の学習内容の自己評価をする。 ・ 個別目標や本時の活動を振り返り、称賛する。
個 (1)	6 終わりのあいさつをする。	・ 正しい姿勢であいさつするように言葉かけをし、学習の終わりが分かるようにする。

【板書計画】

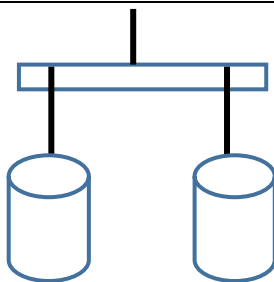
算数 おもさをくらべよう

めあて

おもいほうをえらんで、みんな
でたべられるカレーをつくろ
う。

今日の学習

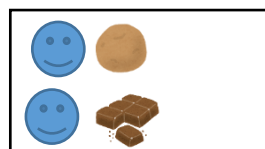
- 1 ひづけ
- 2 おもいほうをえらぼう
- 3 こべつがくしゅう
- 4 ふりかえり



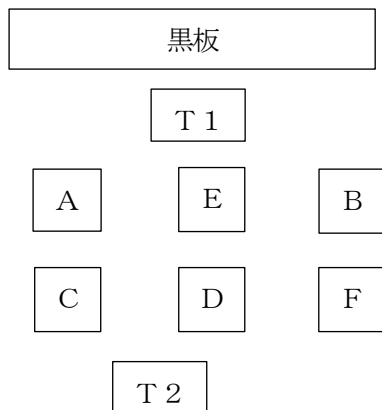
はっぴようするときは
てをあげよう



たたいいしせいで
すわろう



<配置図>



<配置図>

